

令和9年度 沖縄県立高等学校全日制・定時制課程入学者選抜

調査書の作成方法

- (1) 「受検番号」の欄は中学校等においては記入しない。
ただし、Web出願システムを利用して出願した者を除く。
- (2) ※印の欄は志願変更する場合のみ記入する。
- (3) 記入事項のない欄には斜線を引く。
- (4) 「① 各教科の学習の記録」の欄は次のように記入する。
 - ア 「観点別学習状況」の欄は1年～3年の各学年について十分満足できると判断されるものを○で記入し、○に該当しないところは空欄にする。
 - イ 「評定」の欄は、絶対評価による5段階の目標に準拠した評価で記入する。
 - ウ 「総合的な学習の時間の記録」の欄は指導要録に基づいて記入する。
- (5) 「② 特別活動の記録」の欄は指導要録に基づいて記入する。
- (6) 「③ 行動の記録」の欄は指導要録に基づいて記入する。
- (7) 「④ 総合所見」の欄は指導要録に基づいて記入する。なお、特技、資格（例 英語検定、珠算、書道、柔剣道等の級、段位を具体的に記入する。）についても、この欄に記入する。
- (8) 「⑤ 出欠の記録」の欄は次のように記入する。
 - ア 1年及び2年は指導要録に記入されたものを転記する。
 - イ 3年は令和8年12月28日現在で記入する。
 - ウ 出席日数の欄は、不登校の生徒が学校外の施設において相談・指導を受け、そのことが当該生徒の学校復帰のために適切であると校長が認めた場合には、その日数を出席扱いとして出席日数に加えるとともに、（ ）内に内数として記入する。
 - エ 備考欄は、欠席の正当な理由のあるものについて、その数値を記入し、その数が10日以上の場合は、理由もあわせて特記する。（ただし、病欠については回数のみ）また、前記ウで相談・指導を受けた適応指導教室等の施設名を記入する。
- (9) 「⑥ 健康所見」の欄は健康診断票の該当欄の最も新しい記載事項を転記する。高等学校の就学に支障があると思われる疾病又は異常のある者については、募集年度の4月以降に診断した結果を記入し、健康診断書を添付する。
過年度卒業者については記入を要しない。ただし、令和9年1月以降に行った健康診断書（第12号様式）を添付する。（病院、診療所又は保健所が発行したもの。）
- (10) 令和4年度以前に卒業した者の調査書については、指定された様式で作成すること。

調査書記入例（令和9年度入学者選抜版）

第4号様式
調 査 書
(令和5年度以降の卒業（見込み）者用)

ふりがな 氏 名	例1 性別欄もしっかりチェック！			男・女
生年月日	平成	年	月	日生
現住所	例2 「市町村」から記入も可。志願書等も同様 ※県外からの志願者は「都道府県」から記入			
学校名	令和 9 年 3 月 (卒業 ・ 卒業見込み)			

① 各 教 科 の 学 習 の 記 録

必修 教科	観点	観点別学習状況			評定		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年
国 語	知識・技能	○	○				
	思考・判断・表現	○		○			
	主体的に学習に取り組む態度		○	○			

② 特別活動の記録

学年	学級活動	生徒会活動	学校行事
1年	○		
2年		○	
3年			○

③ 行 動 の 記 録

学年	基本的な生活習慣	健康・体力の向上	自主・自律	責任感	創意工夫	思いやり・協力	生命尊重・自然愛護	勤労・奉仕	公正・公平	公共心・公德心
1年	○	○	○	○			○		○	
2年	○		○	○		○		○	○	○
3年	○		○		○			○	○	

例3 観点別学習状況については、「A：十分満足できる」状況と評価されたものに○をつける。

例4 行動の記録は○をつける。○がない場合は、そのまま空欄で可。(斜線の必要なし)

例5 小学校に取得した推薦等で必要な資格（英語検定、数学検定、漢字検定のみ）の記載は1年の欄に記入可。
記入例：※英検準2級（小学6年生時）

例6 総合所見は読める大きさのフォントサイズで記載する！

例7 第2次募集においても、出欠の記録や成績に係る指定日（12月28日）の数値を記載する。

例8 病欠や正当な理由のある欠席については、必ず備考欄に欠席区分（病欠、届出欠席など）と日数を記載。
それらの数が10回以上は主な理由も書く。
(ただし、病欠の場合は日数のみで可)

例9 欠席日数が10日以上の場合、届出欠席の理由を（ ）書きする。

例10 「備考」に記載事項がない場合は、斜線を引く。

例11
・「特に所見なし」に○をつけた場合
→2のイ「健康に配慮を要する」の欄に斜線必要なし。
・「所見あり」に○をつけた場合
→疾病名を記入し、健康に配慮を要する場合は〔 〕に記入。
記入例：〔 激しい運動は控える 〕
特になければ、〔 〕内に斜線を引く。

例12 出欠の記録や成績に係る指定日付（12月28日）もしくはそれ以降であればOK！

例13 記載責任者の印は不要。

※令和5年3月以前に卒業した者については、本冊子の様式等を使用。(ホームページ掲載予定)

<過年度に卒業した者の観点別学習状況の記載について>

外国語	英語	生活や技術についての知識・理解	コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ※1	外国語表現の能力 ※2	外国語理解の能力 ※3	言語や文化についての知識・理解
			○	○	○	
			○	○	○	
			○	○	○	

注：学習指導要領（平成29年告示）における下記の観点別学習状況については、※1～※3の欄へ記載。
※1：知識・技能 ※2：思考・判断・表現 ※3：主体的に学習に取り組む態度

注：観点別学習状況の欄で評価されていない箇所は、斜線（／）を入れる。

学習指導要領（平成29年告示）における観点別状況については、※1～※3の欄に記載。
また、観点別学習状況の欄で評価されていない箇所は、斜線を引く。

「出欠の記録」の記載例

I. 「出欠の記録」記載例1（備考欄の記入）

⑤ 出欠の記録	項目	1年	2年
	学年		
	欠席日数	6	0
	出席日数	200	208
	備考	病欠1 ※1 届出欠席3	※2

第2学年において皆出席の生徒

※1 欠席日数6（病欠1、届出欠席3、無届欠席2）の場合の記載方法
（欠席日数6－病欠1－届出欠席3＝無届欠席2）

※2 令和5年度入試から、皆出席の場合でも備考欄に記載必要なし。

II. 「出欠の記録」記載例2（「正当な理由」を備考欄に記入）

⑤ 出欠の記録	項目	1年	2年	3年
	学年			
	欠席日数	12	12	14
	出席日数	194	196	166
	備考	病欠5 届出欠席7 （私事旅行）	病欠12	届出欠席10 （定期的な通院） ※3

※3 正当な理由のある欠席について、欠席区分ごとに数値を記入する。
その数が10回以上の場合、（ ）書きで理由を記載する。
（ただし、病欠については回数のみで、病名等や内訳を記載する必要はない。）

III. 「出欠の記録」記載例3（特殊な事例）

⑤ 出欠の記録	項目	1年	2年
	学年		
	欠席日数	0	0
	出席日数	196	208（25）
	備考	※4	△△適応指導教室 ※5

第1学年において新型コロナ関連で「出席停止10」がある生徒

※4 以前は、出席しなければならない数を減じる場合は、備考欄に明記していた。しかし、令和4年度入試から、文科省の通知を受け、出席停止・忌引き等の日数は「記載不要」としている。

※5 不登校等で学校以外の施設において相談・指導を受け、そのことについて、当該生徒の学校復帰のために適切であると校長が認めた場合は、出席日数に加えるとともに、（ ）内に内数を記入する。
また、備考欄に相談・指導等を受けた施設名を記入する。

IV. 「出欠の記録」において、不備のある記載例

⑤ 出欠の記録	項目	1年	2年
	学年		
	欠席日数	15	0
	出席日数	191	208
	備考	病欠5 ※6 届出欠席12	※7

※6 欠席日数が備考欄に記載されている届出欠席等の回数より少ない。

また、病欠以外の届出欠席の理由が（ ）書きされていない。

※7 空欄はNG！

記載事項がなければ、斜線を引く。